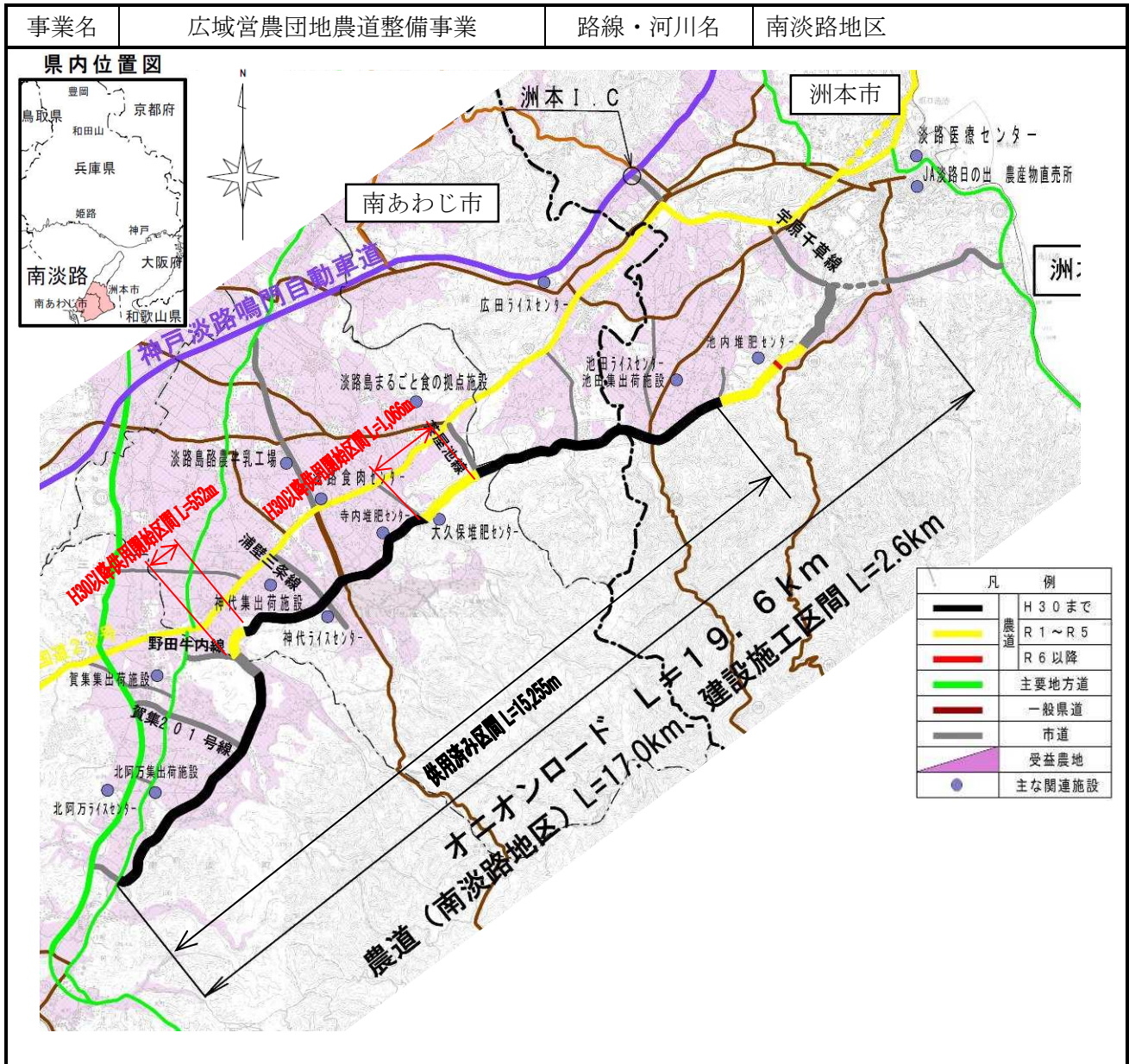


部課室名	農林水産部 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 三輪 頌 (主幹 戸田 久雄)	内線	4003 (4041)	
事業種目	農道整備	新規評価年度	—	現計画	前回評価時	
事業名	広域営農団地 農道整備事業  南淡路地区	事業採択年度	平成6(1994)年度	総事業費	164億円	
		着工年度	平成7(1995)年度	内用地補償費	25億円	
		再評価年度	平成15(2003)年度	完成予定年度	令和7 (2025)年度	令和4 (2022)年度
			平成20(2008)年度 平成25(2013)年度 平成30(2018)年度	進捗率 (用地補償進捗率)	96%(100%)	87%(98%)
事業区間	南あわじ市阿万上町～洲本市千草		残事業費	6億円	18億円	
事業の目的				事業内容( )前回評価時点:変更箇所のみ		
本地区は玉ねぎ・レタス・水稻等の多毛作地帯であり、乳用牛・肉用牛の飼育も盛んな県下有数の農業地帯であるが、国道に交通が集中しており農畜産物の輸送効率が十分でない。このため本農道を整備し生産地から出荷地・消費地までの物流を活性化させ、農畜産業の振興や農畜産物の物流効率化を図るとともに、災害時等の輸送路・迂回路、通勤・通学等の生活路を確保し、農業生産基盤と生活環境基盤の両面において利便性や安全性の向上を図る。				農道新設 延長 17.0km 道路規格：第3種第3級 計画幅員：2車線、片側自歩道 車道 6.0m[全幅 10.75m] 日計画交通量：4,400台(4,700台) 【農業約2,700台、農業外約1,700台】 受益面積：4,183ha 負担割合：国:50%、県:35%、市:15%		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	①「基幹産業として持続的な農業の発展」の一端として、都市近郊の立地を最大限に活かして農畜産物の効率的な輸送に向けた広域道路網の整備が必要とされている。 ②南あわじ市および洲本市に農畜産物等の産地直売施設がオープンし、南淡路における物流の基幹道路のひとつとして、本計画道路の果たす役割が期待される。 【前回評価(H30)時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ① 軟弱地盤層の出現および地すべり等が発生し、対策工法の検討および対策工の追加により事業費を21億円増額する。 ②軟弱地盤対策および地すべり対策の工法検討および対策工事に時間を要するため、完了予定年度を令和7年度に変更する。					
進捗状況	①進捗率は、事業費ベースで96%、延長では16.9kmで99%、うち供用開始は15.3km。用地取得率は100%である。					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見 及び対応方針 (H30年度再評価)	【審査会意見】  継続妥当		【対応方針】  —			
(1)必要性	①南淡路地域は水稻・野菜の多毛作体系で営農しており、農業産出額は野菜が県下の4割、生乳が3割を占め、本県の主要な農畜産業地帯である。渋滞する国道や狭小な道路により非効率な輸送形態が続いているため、集出荷場への収穫物の搬入及び肥料・飼料等の輸送道路として本農道が必要である。 ②本農道は農畜産物を京阪神等に出荷する基幹道路となるが、部分的な供用開始で輸送路が分断されている状態では効果は発揮されず、残りの区間を接続させる必要がある。 ③災害発生時の避難経路の確保は非常に重要であり、洲本市および南あわじ市においても本農道に対して緊急時の輸送路・迂回路としての役割が期待されている。 ④通勤・通学等日常生活における利便性や安全性の向上が求められている。					
(2)有効性・ 効率性  (執行環境状況)	①費用便益比 B/C=1.8 (前回評価時点 B/C=1.1) ②洲本市・南あわじ市における新設市道の一体的整備が進んでおり、効果的に事業効果を発現することが可能である。 ③市・JA・土地改良区で構成する「南淡路広域農道推進協議会」が設置されており、地域における協力体制が整っている。					
(3)環境 適合性	道路法面を保護するための植生として、山腹区間でのウバメガシなど在来種の復元に配慮するとともに、法面吹付基材は伐採した樹木をチップ化して再利用している。					
(4)優先性	農業競争力強化のためには農畜産物の効率的な輸送基盤の整備が必要であり、本農道の事業実施の優先性は高い。					
再評価 の結果	継続	理由	事業進捗率は96%を超え、関連市道の整備も進んでいることから、事業を継続し、計画通り事業を完了することが妥当である。			

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第5回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体 H6 (1994) ~ R7 (2025)	<b>【事業費＝164億円】</b> 農道新設 延長 17,000m 受益面積 4,183ha 全幅 10.75m 車道幅員 3.0m×2車線	
前回再評価 まで (実績)	<b>【事業費＝約125億円】</b> 用地買収進捗率 98% 整備延長 道路工：15,149m、舗装工：13,987m	<ul style="list-style-type: none"> <li>南あわじ市阿万～市道野田牛内線区間、神代～八木区間、八木～洲本市池田における円滑な農畜産物の輸送</li> <li>上記区間における日常生活の利便性や安全性の向上</li> </ul>
過去 5年間 R1 (2019) ~ R5 (2023)	<b>【事業費＝約32億円】</b> 用地買収進捗率 100% 整備延長 道路工：1,801m、舗装工：1,860m	<ul style="list-style-type: none"> <li>南あわじ市八木養宜および神代国衙区間の開通による農畜産物輸送効率の向上</li> <li>日常生活の利便性や安全性の向上</li> </ul>
今後2年間 (予定) R6 (2024) ~ R7 (2025)	<b>【事業費＝約6億円】</b> 整備延長 道路工：50m、舗装工：1,153m	<ul style="list-style-type: none"> <li>農畜産物等の円滑な輸送</li> <li>生産性の高い循環型農業の推進</li> <li>農村環境における利便性や安全性の向上</li> </ul>

# 広域営農団地農道整備事業 南淡路地区

## <事業目的>

本地域は県下有数の農畜産業地帯であるが、交通が国道に集中して農産物輸送等にコストが掛かっているため、広域農道を整備し、農業経営の向上を図るとともに、災害時の避難・輸送路、また生活道路を確保する。

## <事業内容>

農道新設 延長 17.0km  
 2車線 片側自歩道  
 車道6.0m(全幅10.75m)

## <事業区間>

南あわじ市阿万上町  
 ～ 洲本市千草

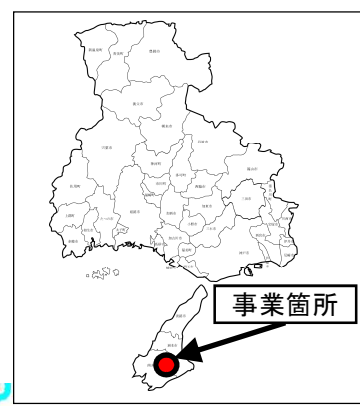
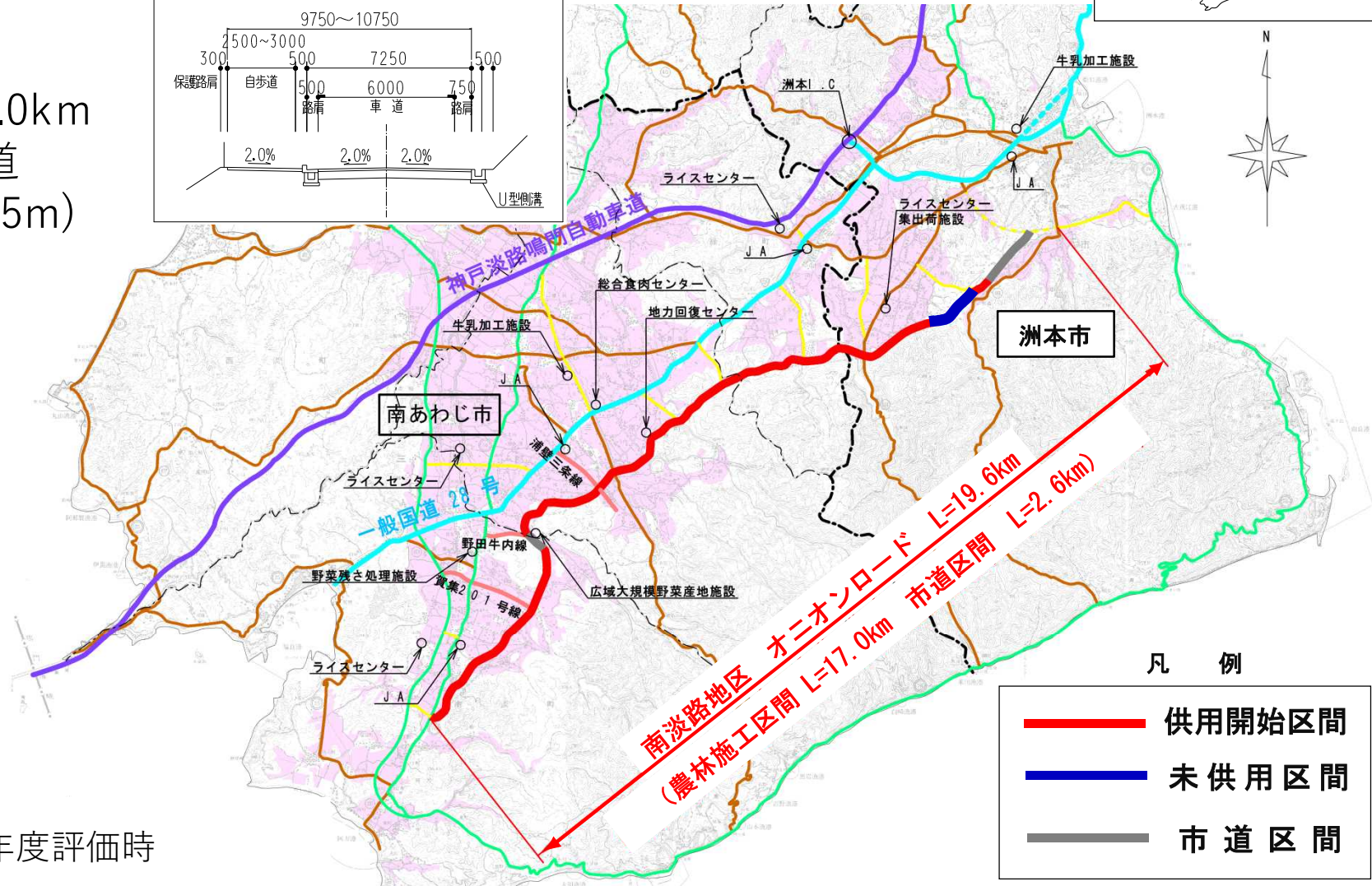
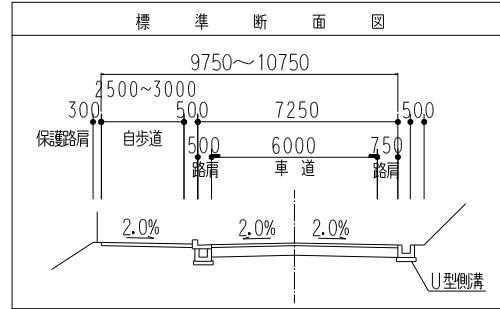
## <総事業費>

164億円 (143億円)

## <事業期間>

平成6～令和7年度  
 (平成6～令和4年度)

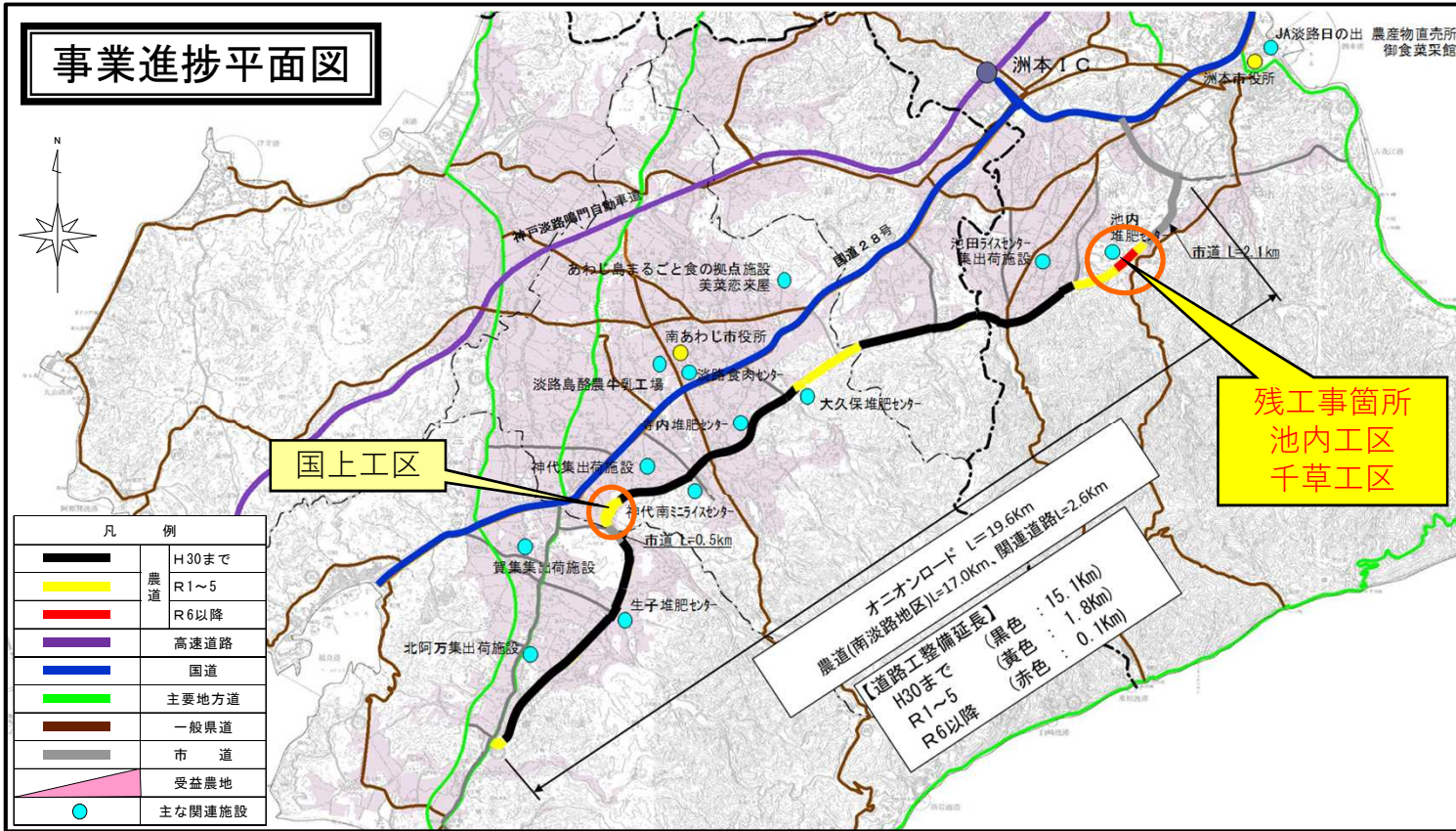
※ ( ) 内は前回平成30年度評価時



**地すべり対策工事の追加等による工期延伸及び増額**

# 進捗状況

## 事業進捗平面図



# 現況写真

## ①本線施工状況



## ②地すべり対策中の法面崩壊状況



## ③補強土壁の軟弱地盤対策



## 工程表

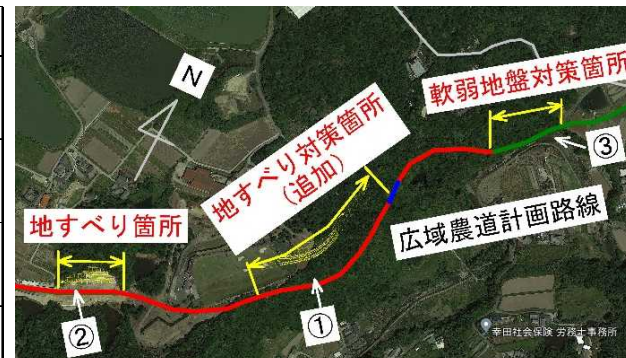
■ : 前回計画  
■ : 実施・計画

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H29	H30	R1	R2	R4	R5	R6	R7
設計	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
用地補償	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
道路工	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
舗装工	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

・地すべり対策  
・軟弱地盤対策

## 残工事対策状況

■ : R6以降施工範囲  
■ : R5年度施工範囲  
■ : R4以前施工済範囲



## (1)費用対効果

### ①便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
①営農にかかる走行経費節減便益 (農畜産物の輸送等にかかる時間短縮に代り便益)	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{通作時間} + \text{輸送時間}) \times \text{時間あたり経費})$
②一般交通等走行経費節減便益 (農業以外の一般交通にかかる時間短縮による便益)	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{走行時間}) \times \text{時間あたり経費})$
③維持管理費節減便益 (施設の維持管理に要する費用の節減による便益)	整備無しの維持管理費 - 整備有りの走行経費

### ②費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C		
		便益額 (百万円)	代表的な 効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)			
農道整備	広域営農団地農道整備事業	①営農にかかる走行経費節減便益	18,552	農業輸送及び通作に掛る走行時間の短縮	36,690	34,800	1,890	1.8	
		②一般交通等走行経費節減便益	46,963						一般交通の走行時間の短縮
		③維持管理費節減便益	-83						新設整備による維持管理費の増
		合計	65,432						

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○	県立淡路医療センター(災害拠点病院)へのアクセス道路
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○	東西基幹道路である国道28号線の迂回路としての機能確保
		減災対策への取り組み (※避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○	南あわじ市阿万等で津波が発生した際の避難路としての機能確保
	平時	救急医療体制の支援	○	県立淡路医療センターへのアクセス時間の短縮
		交通安全対策	○	自歩道分離による歩行者・自転車通行者の安全確保
②地域の活性化	地域間交流の促進	○	洲本市と南あわじ市の移動時間短縮による交流の促進	
	地域産業の活性化	○	洲本市と南あわじ市を結ぶ交通ネットワークの形成	
	観光支援	○	市道と一体的に整備することによる洲本市主要観光施設(洲本城跡、温泉施設等)へのアクセス強化	
	地域プロジェクト等支援	○	農畜水産物の直売所へのアクセス向上	
③その他	埋蔵文化財発見効果	○	農道建設に伴う発掘調査により、埋蔵文化財が具現化される	

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①本事業は、地元の要望によって施行されている事業であり、地元の土地改良区、JA、市で構成する推進協議会(南淡路広域農道推進協議会)が設立され、事業推進に向けた調整・検討を実施している。</p> <p>②全線開通による効果が大きいことから、推進協議会からも早期完成に対する強い要望がある。</p>
-------	--